



E 《付け帯》原語ヘーシエブ。「刺繍（ホーシエブ）」という語と関連している。「エフォドと同じ織り方」で、その一部をなすとされていることから、巧みな刺繍を施された帯だったのでこのように呼ばれるようになったのであろう。

F 《ラピス・ラズリ》と訳されたヘブライ語は、縞めのう、紅玉髓とも理解される。

G 《記念の石とする》神による「覚え」すなわち想起（原語ジツカローン）は、祭司文書における重要な觀念の一つ。神が該当者を顧み、（ ）と加護のもとに置くことを意味する（65、創世記8:1、9:15-16）。

B・重い C・職人 G・配慮

メッセージポイント

最高の（ ）で神の働きを建て上げよう。

c)288 あなたはわたしが知恵の霊を与えたすべての知恵ある者たちに説明して、わたしの祭司として聖別されたアロンのために祭服を作らせなさい

（ ）の祈りによって、

主の前に立つリーダーになる。

c)289 また、二個のラピス・ラズリを取り、その上にイスラエルの子女の名を彫りつける。10、六つの名を第一の石に残る六つの名を第二の石に生まれた順に彫りつける。11、印章に石の細工人が彫るように、イスラエルの子女の名をその二個の石に彫りつけ、その石を金で縁取りする。12、13、二個の石をエフォドの両肩ひもに付け、イスラエルの子女のための記念の石とする。アロンは彼らの名を記念として両肩に付け、主の御前に立つ。